

＜施策の取組状況及びKPIの進捗状況＞

【基本目標①】

○3つの港と水産・観光資源を生かしたまちづくり

（１）産業振興・雇用創出

①国内外への市場拡大及び新商品開発支援

項 目	基準値	H27実績 (2015年)	H28実績 (2016年)	達成度 (累計)	2019年度 KPI	KPIの 進捗評価
新商品開発支援件数	—	3件	0件	3/8件	20件 (5年累計)	D
国内外への市場拡大や 企業誘致・起業・創業の 拡大による雇用創出数	—	10人	50人	60/60人	150人 (5年累計)	B
ビジネスマッチング 商談件数（圏域）	—	531件	456件	987/ 720件	1,800件 (5年累計)	B
漁業所得	15.2億円 (2013年)	15.3億円	21.9億円	達 成	19億円以上	A

平成28年（2016年）の取組状況

- ・水産加工大賞が開催されなかったことから、新商品の開発支援件数は伸びなかったが、Sea 級グルメ全国大会等への参加により、既存商品のPRに努めた。また、伯州綿の活用については、研究会を発足し、新商品の企画・開発・販売までを実施し、国際福祉機器展（10月）への出展によりPR活動を行った。
- ・「浜の活力再生プラン」に基づき、魚食普及事業や缶詰原料の海外輸出などの取り組みを行った。

②農業・水産業の担い手育成・確保

項 目	基準値	H27実績 (2015年)	H28実績 (2016年)	達成度 (累計)	2019年度 KPI	KPIの 進捗評価
新規就農者	—	3人	0人	3/2人	5人 (5年累計)	B
新規漁業就業者	—	15人	10人	25/20人	50人 (5年累計)	B
「伯州綿」学習・ 体験事業開催数	—	4回	14回	18/12回	30回 (5年累計)	B

平成28年（2016年）の取組状況

- ・新規就農については、機械・施設等を整備する費用等の支援を実施した（就農応援交付金：1件、青年就農給付金：5件、就農条件整備事業：3件）。
- ・「伯州綿」学習・体験事業を境高校や渡小、聖心幼稚園等で行い、前年以上に、伯州綿に触れ合う機会を創出した。

③企業誘致及び起業・創業の拡大

項 目	基準値	H27実績 (2015年)	H28実績 (2016年)	達成度 (累計)	2019年度 KPI	KPIの 進捗評価
誘致企業数	—	2社	1社	3/6社	15社 (5年累計)	D
起業・創業社数	—	5社	5社	(10社) 達成	10社 (5年累計)	A
起業・創業支援件数 (相談対応含む)	—	相談21件、 創業14件	相談21件、 創業14件	70/40社	100社 (5年累計)	B
国内外への市場拡大や 企業誘致・起業・創業の 拡大による雇用創出数 〔再掲〕	—	10人	50人	60/60人	150人 (5年累計)	B

平成28年（2016年）の取組状況

・誘致企業はスーパーマーケット1社であったが、平成27年に誘致したギンザケ養殖の水産会社や駅前ホテル等の新規雇用により、雇用創出数が大きく伸びた。

(2) 観光の振興

①観光地の魅力度向上による滞在型観光の推進

項 目	基準値 (2014年)	H27実績 (2015年)	H28実績 (2016年)	達成度 (累計)	2019年度 KPI	KPIの 進捗評価
水木しげるロード年間観 光入込客数	230万人	197.2万人	214.7万人	—	年間200万 人以上を維持	B
水木しげる記念館入館 者数	20.4万人	18.07万人	20.34万人	—	年間20万人 以上を維持	B
水産観光イベント来場 者数	4.6万人	5.05万人	5.09万人	5.09/ 4.96万人	5.5万人	B
山陰いいものマルシェ 来場者数（圏域）	—	4.5万人	3.3万人	7.8/ 10万人	15万人 (3年累計)	C
クルーズ客船寄港年間 観光客数	1.4万人	1.94万人	3.96万人	3.96/ 3.64万人	7万人	B

平成28年（2016年）の取組状況

・夏休み期間の夜の賑わいづくりを目的に「鬼太郎祭」を開催したほか、水木しげる記念館の開館時間の延長や、スマートフォン用の妖怪ブロンズ像解説アプリを開発するなどして、観光客の呼び込みを図った。

・水産資源を生かした観光の推進を目指し、水産まつり・まぐろ感謝祭・カニ感謝祭に加え、鳥取県と連携し、海を活用したスポーツの普及に向けた大会（中海 SUP フェスティバル）を開催した。また、民間企業がセーリング体験や、クルージング等の新たなレジャー事業を開始した。

② 外国人観光客の誘客促進

項 目	基準値 (2014 年)	H27実績 (2015 年)	H28実績 (2016 年)	達成度 (累計)	2019 年度 K P I	K P I の 進捗評価
クルーズ客船寄港年間 外国人観光客数	1.1 万人	1.39 万人	1.91 万人	1.91/ 2.66 万人	5 万人	C
国際線利用者数（ソウル 便・香港便・チャーター 便）	3.8 万人	3.99 万人	5.23 万人	達 成	5 万人	A
DBSクルーズフェリー 乗客数（境港～東海間）	1.7 万人	2.77 万人	2.81 万人	2.81/ 2.22 万人	3 万人	B

平成28年（2016年）の取組状況

・境港管理組合を事務局とし、鳥取島根両県や中海・宍道湖・大山圏域市長会構成市、商工会議所や観光協会等で組織する境港クルーズ客船環境づくり会議が中心となって、クルーズ客船の誘致活動や、客船寄港時のおもてなしイベントや観光案内、二次交通対策を実施した。

（クルーズ客船寄港回数 H27：23 回 ⇒ H28：33 回）

・国際線利用者数については、香港便の就航（9 月）やソウル便の LCC^(※) 化（10 月）の影響により、利用者数が大きく伸びた。

（ソウル便：37,688 人、香港便：12,875 人、上海チャーター便：1,713 人）

（※）LCC…Low Cost Carrier の略称で、効率的な運営により低価格の運賃で運航サービスを提供する航空会社のこと

③ 米子鬼太郎空港・DBSクルーズフェリーの利用促進

項 目	基準値 (2014 年)	H27実績 (2015 年)	H28実績 (2016 年)	達成度 (累計)	2019 年度 K P I	K P I の 進捗評価
年間空港利用者数（AN A 便）	49.6 万人	54.9 万人	57.2 万人	57.2/ 53.8 万人	60 万人	B
国際線利用者数（ソウル 便・香港便・チャーター 便） 〔再掲〕	3.8 万人	3.99 万人	5.23 万人	達 成	5 万人	A
DBSクルーズフェリー乗 客数（境港～東海間） 〔再掲〕	1.7 万人	2.77 万人	2.81 万人	2.81/ 2.22 万人	3 万人	B

平成28年（2016年）の取組状況

・ANA（羽田便）については、1 便増加し常時 6 便になったことに加え、期間限定（4～5 月、10 月）で 7 便となるなど、利便性が向上したことにより、利用者数が伸びた。

・国際定期便利用促進協議会を通じ、運行会社や旅行会社への支援、環日本海市民交流促進補助金により国際定期航路を利用した民間の国際的な文化・スポーツ交流を支援、国際定期航路の P R や支援制度の紹介を実施した。

(3) 社会基盤の整備

③ みなとを核とした官民連携による賑わいづくり

項 目	基準値 (2014 年)	H27実績 (2015 年)	H28実績 (2016 年)	達成度 (累計)	2019 年度 K P I	K P I の 進捗評価
水族館設置に向けての 基本構想策定	—	0 件	0 件	—	1 件	C
国内 R O R O 船定期航 路就航	—	0 件	0 件	—	1 航路	B
クルーズ客船寄港年間 観光客数 〔再掲〕	1.4 万人	1.94 万人	3.96 万人	3.96/ 3.64 万人	7 万人	B

平成28年（2016年）の取組状況

- ・水族館構想の実現に向け平成27年に鳥取県・境港管理組合と共同で実施した「実現可能性調査」の結果報告を受け、内容について検討した。引き続き、鳥取県・境港管理組合と協議しながら、慎重に検討していく。
- ・国内 R O R O 船の試験輸送を3回実施した。平成32年度航路開設を目指し、今後も試験輸送を継続実施していく。

(4) 移住・定住の促進

① 移住・定住の促進・情報発信の充実

項 目	基準値	H27実績 (2015 年)	H28実績 (2016 年)	達成度 (累計)	2019 年度 K P I	K P I の 進捗評価
移住・定住者数	—	69 人	149 人	(218 人) 達 成	200 人 (5 年累計)	A
市外在住者の定期借権 契約件数	—	9 件	6 件	15/20 件	50 件 (5 年累計)	C
地域おこし協力隊員数	—	3 人	3 人	6/8 人	21 人(延べ) (5 年累計)	C

平成28年（2016年）の取組状況

- ・地方創生交付金を活用し、鳥取県西部圏域の市町村で連携し、移住体験ツアーの開催、移住ポータルサイト「TOTTORI WEST」を構築。サイトにて、映像コンテンツや移住者コラム・インタビューを掲載し、情報発信を行った。
- ・定期借地権制度をPRし、市外者を呼び込み、移住・定住の促進に取り組んだ。

【基本目標②】

○「子育てするなら境港」を標榜した子育て環境づくり

(1) 少子化対策・子育て支援

① 出会いの場の創出

項 目	基準値 (2014 年)	H27実績 (2015 年)	H28実績 (2016 年)	達成度 (累計)	2019 年度 K P I	K P I の 進捗評価
年間婚姻件数	386 件	402 件	434 件	434/ 412 件	450 件	B
婚活支援事業参加者数 (圏域参加者数)	210 人	251 人	178 人	429/ 480 人	1,200 人 (5 年累計)	C

平成28年(2016年)の取組状況

・中海・宍道湖・大山圏域で連携して婚活事業を実施した。定員を超える応募があり、また、アンケート結果によると、内容(ワークショップや交流会)についても好評であった。

② 安心な妊娠出産環境・子育て支援の充実

項 目	基準値 (2014 年)	H27実績 (2015 年)	H28実績 (2016 年)	達成度 (累計)	2019 年度 K P I	K P I の 進捗評価
合計特殊出生率	1.55 (H26 公表値)	1.47 (H27 公表値)	1.71% (H28 公表値)	1.71/ 1.65	1.80	B
不妊治療後の母子手帳 交付者数	—	9 人	13 人	13/8 人	20 人	B
保育園待機児童ゼロの 維持	—	0 (H28.4 現在)	0 (H29.4 現在)	—	待機児童ゼ ロの維持	B
児童クラブ受入児童の 拡大(小学校4~6年生 の受入)	0 校区	1 校区	3 校区	—	全 7 校区実 施	B
アンケート調査等によ る公園利用者満足度	—	未実施	60%	60/70%	70%以上	C

平成28年(2016年)の取組状況

・妊娠期から子育て期(就学前)にわたる切れ目のない支援を行うため、「境港市子育て世代包括支援センター」を4月に設置。専門職の母子保健コーディネーターを配置し、よりきめ細かな相談、支援体制を構築し、子育て支援環境の充実に向け取り組んだ。

・国・県の助成に加え、特定不妊治療と人工授精の市独自助成を継続して実施した。

・待機児童ゼロの維持のため、加配保育士の配置に係る費用の助成や1歳児の保育に係る保育士の配置人数を国基準より多く配置した場合の費用の助成を実施した。

・外江、境児童クラブで受入対象児童を小学校4~6年生まで拡充した。(平成30年度に全7校区実施予定)

・公園ニーズ調査を実施した。今後、調査結果を参考に、効率的な除草の実施など、公園の環境整備に努める。

(2) 女性活躍の推進、ワーク・ライフ・バランスの啓発・支援

① ワーク・ライフ・バランスの啓発・支援

項 目	基準値 (2014 年)	H27実績 (2015 年)	H28実績 (2016 年)	達成度 (累計)	2019 年度 K P I	K P I の 進捗評価
「鳥取県男女共同参画 推進企業」認定割合	3.2%	4.26%	5.33%	5.33/ 5.12%	8.0%	B

平成28年(2016年)の取組状況

・制度周知の説明会、事業所対象の講演会を開催し、ワーク・ライフ・バランスについての啓発及び理解の促進を図った。

② 女性の就労環境充実のための家庭介護負担の軽減

項 目	基準値	H27実績 (2015 年)	H28実績 (2016 年)	達成度 (累計)	2019 年度 K P I	K P I の 進捗評価
75 歳以上人口に占める 要介護認定者の割合抑 制	38.0% (2019年度 見込)	33.74%	32.75%	—	37.0%	B
高齢者地域見守り体制 の整備	3 地区 (2014 年)	4 地区	4 地区	—	7 地区	C

平成28年(2016年)の取組状況

・10月より、中核を担う地域包括支援センターを集約・市直営化とし、包括ケアシステムに関する周知の強化、在宅生活への可能性について啓発を行うなど、地域包括ケアシステムの構築に向けて取り組んだ。

【圏域の目標】

○県境を越えた広域連携による魅力ある圏域づくり

(1) 中海・宍道湖・大山圏域市長会

項 目	基準値 (2014 年)	H27実績 (2015 年)	H28実績 (2016 年)	達成度 (累計)	2019 年度 K P I	K P I の 進捗評価
圏域への観光入込客数	2,865 万人	2,849 万人	2,827 万人	2,827/ 3,267 万人	3,870 万人	C
圏域での外国人宿泊数	5.6 万人	8.5 万人	9.4 万人	9.4/ 7.84 万人	11.2 万人	B
山陰いいものマルシェ 来場者数 〔再掲〕	—	4.5 万人	3.3 万人	7.8/ 10 万人	15 万人 (3 年累計)	C
ビジネスマッチング商 談件数 〔再掲〕	—	531 件	456 件	987/ 720 件	1,800 件 (5 年累計)	B

平成28年（2016年）の取組状況

＜国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成＞

圏域企業の販路拡大支援として、ロシアバイヤー招聘による商談会の開催・ロシアにおける販促活動及び圏域 P R や、インド・ケララ州で開催された産業展示会に出展した。また、圏域内での「山陰いいものマルシェ」のほかに、圏域外（名古屋市、芦屋市、大阪市）での「いいものマルシェ」も開催し、山陰が誇る「いいもの」を再発掘するとともに、圏域内外に向けて情報発信を行った。

＜交通ネットワークの充実＞

圏域内インフラの整備促進のため、北東アジアゲートウェイ境港の重点整備について要望活動を実施した。

＜住みたくなる圏域づくり＞

「ラムサールシンポジウム 2016 in 中海・宍道湖」や「中海・宍道湖自然体験クルーズ」を開催し、圏域の豊かな自然環境について情報発信した。

＜住民サービスの向上＞

「中核人財養成事業講演会・グループワーク」の開催や「山陰まんなか未来創造塾」への参加を通して、圏域の将来を担う人材育成を圏域共同で実施した。